愛知県立大学図書館蔵『蛮書雑記』解題・翻刻（二）

愛知県立大学稀書の会

前号に引き続き、『蛮書雑記』の後半を掲載する。なお本会の参加者は以下の通りである。

大塚英二教授、久冨木原玲教授、小谷成子教授、足立絵里奈、井上純二、大川のどか、加藤彩、加藤華、狩野一三、久我美咲、熊澤美弓、栗原礼奈、名倉ミサ子（五十音順）

【凡例】

翻刻にあたっては、底本にできる限り忠実であることを原則とした。但し、読解と印字の煩雑を避けて、次のような処理を施した。

一、固有名詞以外の漢字は、異体字や略字なども基本的に現在通行の字体に統一した。但し、嶋・哥・云などはそのままとした。

一、誤字・当て字・送り仮名・仮名遣いなどは底本通りとした。

一、合せ字は開いて表記した。

一、改行そのほか字配りは、必ずしも底本に従わなかった。

一、匡郭外の書込みは「＊」の間に表記した。

一、虫損等による判読不能箇所は□あるいは［　］で示した。

【翻刻】

〔二十二丁ウ〕

堀川先生曰三百篇之後唯漢魏之際遺響尚存厥後唯杜少陵氏
之作為庶幾矣蓋古人之詩皆発於咨嗟詠歎之余而一無非事
実者所謂本於性情是已非若後人之無事而強作也其無所感托
徒流連光景摸写物象者雖写難状之景如在目前畢竟徒
作耳風雲月露山川草木本天地自有之物不須詩人摸写之也唯杜甫
平生憂国愛民忠憤感激一皆寓之於詩世称詩史故杜詩之
妙不在於巧拙之間而在於真□盈溢不可歇止無意托物比興而

〔二十三丁オ〕

托物比興無所不有後世或譏見近質野或誚其間有村陋句至於
明鄭善夫亦褒貶是非不少仮借皆徒知以詩家縄墨糾之而
不知此反是其訕処也李白雖神於詩其意易識至杜詩註者
込慮数十家是李之所不及以人之所感自異也至於文則蕭統
文選為本然識見不正銓択不精多載謡麗蕪蔓無益于実用
者甚害於学者也特東萊文鑑西山正宗為得正然正宗中猶
載退之書記等則末可謂純善呉訥弁体慎蒙明文則
稍可矣
呂公原明雖性至楽易然未嘗仮人辞色悦人以私

伯淳終日坐如泥塑人然接人渾是一団和気所謂望之儼

〔二十三丁ウ〕

＊既仁只管／愛上乍心／得仁＊

然即之也温

努行近乎仁力行関愛甚事何故却近乎仁

徴王制曰凡居民材。必因天地寒煖燥湿広谷大川

異制。民生其間者異俗。剛柔軽重遅速異斉。五味異和

器械異制。衣服異宜。修其教。不易其俗。斉其政。不易

其宜。曲礼曰君子行礼。不求変俗。祭祀之礼。居喪之

服。哭泣之位。皆如其国之故。是礼之所以貴和也。

人或知礼為先王之礼而不知義為先王之義

矣古人拠事必援古義以断之詩書義之府矣

是其具也

〔二十四丁オ〕

学農圃。学射御。亦皆言学。而単言学者。学

先王之道也。学先王之道。自有先王之教。伝曰。楽正

崇四術。立四教。順先王詩書礼楽以造士。是也。習者。

肄其業也。時習之。王肅曰。以時誦習之。伝曰。春誦

夏弦秋学礼冬読書。其習之亦如之。以身処先

王之教也。説者。心深受而有所愛慕也。蓋先王之

道。善美所会萃。天下莫尚焉。而其教法。順陰陽之宜。以将息之。仮以歳月而長養之。学者優游於其中。久与之化。徳日以進。辟諸時雨之化。大者大生。小者小生。豈非可悦之事乎。

〔二十四丁ウ〕

紅毛字

都而廿五字

蘭学楷梯二巻之書ニ委

韓詩説。一升曰爵。爵。尽也。足也。二升曰觚。觚。寡也。飲当寡少。也三升曰觶。觶適也。飲当自適也。四升曰角。角。触也。不能自適

〔二十五丁オ〕

触罪過也。五升曰散。散訕也。飲不自節。為人謗訕。総名曰爵。其実曰觴。觴者餉也。觥亦五升。所以罰不敬。觥廓也。所以著明之貌。君子有過廓然著明。非所以餉。不得各觴。令以日本之量求。爵受八勺九。觚受一合七勺八。觶受二合六勺七。角受三合六勺弱。散与觥受四合五勺弱。則古今人酒量。亦不

甚相遠矣。

＊史之楽書＊

歌者上如抗（如抗挙）下如隊（如墜堕）曲（マクルヰハ）如レ折　止（ルヰハ）如ニ槁木（枯一木）居（ヲクコト）中レ矩　句（カヽムルヰハ）中レ鉤

累々乎殷如貫珠

史記世家曰孔子晚而喜易。序。正義曰序易序卦也夫子作十翼謂上彖下象上象下象上繫下繫文言序卦説卦雜卦也易正義曰文王既繇六十四卦分為上下篇先後之次其理不レ易孔子就上下二徑格序其相次之義

〔二十五丁ウ〕

彖　正義曰吐乱反上彖卦下辞。下彖爻卦下辞。易正義曰。夫子所作。統論一卦之義。或説其卦義。或説其卦名。荘氏曰。彖断也。言断一卦之義也

繫　正義曰如字。又音系。易正義曰。繫辞者。聖人繫属此辞於爻卦之下。分為上下篇。者。以簡編重大。是以分之。又言系辞者。取綱系之義也

象　正義曰。上象卦辞。下象爻辞。易正義云。万物之体。自然各有形象。聖人設卦以写万物之象。今夫子釈此卦之象也

説卦　正義曰。易正義云。説卦者。陳説八卦德業変化法象所為也。

文言　正義曰。易正義曰。夫子賛明易道。申説義理。釈乾坤二卦経之言。故称文言。又雜卦者。六十四卦以為義於序卦之外別言。聖人之興。因時而作。随其事宜。不必相因襲。当有損益。又云雜揉衆卦。錯綜具義。或以同相類。或以異相明。按史不出雜卦。故附之

＊按抱朴子云／有古強者／云孔子常／勧我読易／云此良書也／丘窃好之／韋編三絶／鉄摘三折／今乃大悟＊

読易。韋編三絶。曰仮我数年。若是。我於易則彬彬矣。孔子以詩書礼楽教弟子

包咸曰方里為井。井間有溝。溝広深四尺。十里為成。成間有洫。洫広深八尺。刑昞曰。案考工記。匠人為溝洫。耜広五寸。

〔二十六丁オ〕

二耜為耦。一耦之伐。広尺深尺。謂之畎。田者倍之。広二尺。深二尺。謂之遂。九夫為井。井間広四尺。深四尺。謂之溝。方十里為成。成間広八尺。深八尺。謂之洫。方百里為同。同間広二尋。深二仞。謂之澮。鄭注云。此畿内采地之制。九夫為井。井者方一里。九夫所治之田也。采地制井田。異於郷遂及公邑。三夫為屋。屋具也。一井之中。三屋九夫。三三相具。以出賦税。其治溝也。方十里為成。成中容一甸。甸方八里。出田税。縁辺十里治洫。方百里為同。同中容四都六十四成。方八十里出田税。縁辺十里治澮。是溝洫之法也。以今尺求之。五寸為三寸六分。一尺為七寸二分。二尺為一尺四寸四分。四尺為二尺八寸八分。八尺為五尺七寸六分。二尋為一丈一尺五寸二分。一里為

〔二十六丁ウ〕

三百歩則二百四十丈。為今百七十二丈八尺。乃四町四十八間也。十里為今千七百二十八丈。乃一里十二町也。百里為今万七千二百八十丈。乃十三里十二町也。八里為今千三百八十二丈四尺。乃一里二町二十四間也。八十里為今万三千八百二十四丈。乃十里廿四町也。もなし牛に角もなし此格曲をする也けり留下五文字の中ニにの字畢ぬ切ルコノヌハ（るにかよふ也ずにかよふ也し濁るハ未来也切字ニ成し（たふかよふ有過去ハ不切し キクウイニ通ふハ現在ニ而切字也五文字切上の言葉にの文字なくて哥頭に不及おまわし七文字の下にとの字置下の文字ニハきるゝ也梅ハ過桜ハ風に余花の景三名切

木〻にさへ咲ぬも有を思ふ花候 切字 御かへ候桐木松か枝君か春有 もろこしに一ツの鳥有杜字
さへ 夢にさへ紙に包まは宝舟 入て聞発句 野の宮の秋より末ハ神の留主 大廻し 下五中長上五とまはす也 雲
はよふ 峯の 嵐歟 秋の月 はね字 現ぬらん □去つらん 名も高き月や桂を折つらん 此句よし

〔二十七丁オ〕

上に切字有て哉留ありねさし出ても［　］する哉 此し現在は切字なれ共さし□ると続きてくるしからす
又や哉もむつかし口合のや名所のやにくるしからすしくれきや空に露けき山
路哉
此ハけりといふ心のや也哉とも留る也 なの切字 おまわし也下知のなハくるしからす 上ニ切字有て哉止らす十二字め
抱へ字トノモニ 秀句上下へいゝかける也 空ハ晴し 花ハちらさじの 風雅哉らん留 しそやの切字のてにハといふ月やかつらの句ニ
脇之部 らん留発句もかな等のうたかひの句にハはね字ニて留るもよし 耳なしの山の口なしえてし哉哥ふか色の下染にせん
恋の発句に脇に恋ならてくるしからす神報ハなうて叶はすて留 十字めにハ文字を置也
松にかゝれる月ハ氷て ラリルレロハヒフヘホ 第三之部もなし曲もせぬなり
雪ハまた解ぬ歟谷に水もなしらん留 や文字にて押へて留ル 発句哉ワキ下知なとの時にも発句に
疑ひ有時ハらん留あし、 に留 うたかひの発句によし下知の句決したるニはあし、 にて留 哉留の発にあし、かよはぬハくるしからす
なれやもなし事也長閑哉の類 名留 ミなくさしつかへ候時すへし春の月なとてにはの離きものなれハ不苦

〔二十七丁ウ〕

平句の部 常に三句たりの物を押尺恋に結へハ二句ハ有も不苦 下ミゆ留 十二字にフルムクスシツ押へ字ウクスツヌフムユル 古来の押字也
上にその字有てハあし、その字を押へ字シキヌルユツクト 下こそ留 打越に字余りの句歟又下知の句有ときすへし ラリルレロ十二字めにハヒフヘホ置へし
下に留 前の長句にてと有ときすへし なミたハ袖に露ハ袂に 下て留 十字めに押へ字ラリルレロハヒフヘホヌハステ
下にて留 七文字めに押へ字下ルハ つゝ留 かそつたるすと也 長の留 七文字下に歟の字置 花によしの

吉野の名産を結ふ花にさくら似せ物の花ニ桜付てよし但しさくらに花ハくるしからす

無名の鳥に（名の鳥付てよし 名の鳥に無名ハならす）秋の句に花の付やう（霞を霧に 見立る心也）

長にて留（押へ字左の通 置所かまひなし）軽き哉にかよはぬにてハくるしからす

但シソカヨの三字有ば留らす此三字を押へ字ト文字を引付てウケル（をハばもからぬ だにさへ）（とそわろし そとよし）

長に留（ケタヨの三字上に有て 留らす）らん留（上にし（カ）たかひの字 置へ（カ）し）治定のはね字（ぞ を）

又はて置て押ゆへし過去の又又かき立る窓の灯未来の又（又と逢ふ人て なけれハ名残おし）

〔二十八丁オ〕

ハ字の付処（さへ何か猶 こそハたれも）（右前句に有を 心得て付へし）宗一重ネテヨム字ハニゴルヘシ（ハキザ部ノルイ）

宗音一野分（ノワキ也）秋ハ一頭ニ書マシキ仮名ハ（に耳ハリかたし のれろなもくへ）同一下ニ書マシキハ（ハふと はとこ）

□堂（たつけ そさしおわか）一中のえを書事（中を内と よむ字えの字を書也）越（こえ こゆる）聞（きこえ きこゆる）一字のこゑをはねるハほををと読へし

庵塩（イホリシホ アンエン）一焔のを書事小の字いつれもはしのをなり小舟をふね小島をしま

女ハ焔のを男は奥のお焔のへ書事ふひへしにかよふハへを書へし思（へ ひふ）誓（へ ひふ）

弁（へ ふ）答（へ ふ）ハヒフヘホノ五字通故也一声末（こゑ すゑ）贄（にゑ いゑ）家右衛門（うゑもん）左衛門（ひやうゑ）右兵衛左兵衛右（おくのゑ 書事あまた）

有ましきにや一中のゐ書事（あまたにかよハす只 一品によむハ中のゐ書へし）位（くらゐ）待居（まちゐ）てノ類又くゐな

くもゐ井も中のゐ也一（さびハ句の 色なり）（去来）花守や白きかしらをつきあわせ（翁曰）さひ色

よく（あらハれ たり）

句の位　卯の花のたえ間たゝかむ闇の門　翁曰位尋常ならすとなり　句のしおり十団子も小粒に　翁曰此句しおり有　句の細ミ　鳥ともゝ寐入てゐる歟余吾（ママ）の海　翁曰此句細ミあり　下臥につかミ分ハやいとつくり　此句

〔二十八丁ウ〕

いひおふせて詮なし　一兄弟の顔見あハすやほとゝときす　此句いひおゝせすして詮なし　人の田へ拍子に乗て

うへそふな千代しうつて行老麦林　八重垣くちあひのや　物を二ついはんとて中にやの字を入てくちあひたる也　春の雨秋の時雨と世にふるハ花や

落葉の為にそ有ける　ねかひのや　見せはやなをしまの海士の袖ころもぬれにそ―　ねかひすつるや　やとねかひていひすてたる也

春の花なかむかまゝの心にていく程もなき世をすくさばや　よひいたすや　にほてるやみよしのやさゝなミやの類也　やすめたるや

是ハ詞のやすめにをきたるハかり　柴のとをさすや日影の名残なく春くれかゝる山のはの空　うたかひのや

にて心なきなり

花や散らん人や見るらん　水の面にあやをりミたる春雨や　かたうたかひのや　うたがひのや

なとの類也又句を帰てもおなし　山のミとりをなへて満らん

ハ大かた下にらんらしけんましかもなとの　涼しさハ秋やかへりてはつせ川　重ねう

か、へ字有是ハうたかひてかゝへ字なし

たかひのや　うたかひのやを二つかさねたる也　君やこしわれや行けんおもほへす夢かうつゝかねてかさめてか　うたかひすつるや

あふ事もなきたにわたる芦鴨の　ふく風に谷の水としなかりせはミ山かくれの花を見ましや　之ハせましきを

うきねを宿と人ハしらすや

風水有ハこそ

ミしと心をかハるを云ゝ　哉にかよふか　夕つく日さしや庵の番の戸にさひしくも有かひくらしの声

〔二十九丁オ〕

イキシチニヒミイリノ下ニアル　日ハ見ぬ秋ハこしぬの類也　○切字　哉もかなやしじぬそつすよせれへきいかにかけり

ぬハ不のぬ畢ぬ紛るゝ也

はね字　以上十八　かな　かに通ふ哉　願の哉フルムクスレツノ留りにてハ　○切ノや　うたかひ

うく哉沈哉現在の哉哉落着しかたし

のや捨や此二つの口合のや三ツメはのや　八ツメすミのや四ツメやにて哉留まらす　○中や　あらハやの心　此四ツに而は哉留に留て留くるしからす

○けり留中七の末にに文字置て作るへし　さなけれハ畢句とまきらはし　きけりけらし　らしの反りけりの反き

○下ノ句哉留ハうち返して吟するやうに作るへし外に子細なし　是非もいはれぬ渡世なる哉〈と返さるゝ也　○春の色　を去年下染　やのけふの空

此句ノやふ切ヤヲをのヲやニ替て疑故に切字になる也　○けふ立や誠あらはす春霞　此句のやハ誠あらはすやふらんと疑故切字ニナル也

○けふよりや世の言草も花の春 此やも疑故に切ル也 ○かの類秋風ハ薄折散る夕哉 此句ハノ字ヲニシテ訖なし八文字ニテ吉

○宗匠ノ脇ノ方文台ヲ直シ硯ヲ下シ蓋ヲ取硯ト双ヲキ水引ヲフタノ上ヘニヲキ

紙ヲタテ、中ヨリ懐紙二枚ヲヌキ文台ノ上ニヲキ残ノ紙ヲフタノ手前ニ双又水引ヲ紙ノ上ニヲクナリ　蓋硯紙如斯備座ノ時ハ此通跡ヘモトル也

○懐紙ヲ二ツニ折リ又横ニ三ツニ折文台ノ左の方向隅にヲキ墨ヲ摺筆ヲ取文台ノ上ニヲキ懐ヨリ一順を出シ文台ノ上に開置一順写し可申哉と宗匠へ窺ひ発句

〔二十九丁ウ〕

ヲ書端作ノ事ヲ又窺ヒ書テ一順ヲ写シ懐紙モ筆モ文台ノ上ニ置一順上ケ申（カ）ヘク哉と窺一順上ル也　発句ハ諸吟シワキヨリ片吟シ也　一順上ケ仕舞ヘハ一座礼有直クニ前句ヲ上ル月ノ前には月前と云月ノ句ニハ月秋と云マダ秋ト両度云秋ツレト云ヘシ花ニハ花前ト云又花ト云マタ春ト云ナリ

○満坐ノ上懐紙モ文台ノ上ニヲキ清吟可致哉ト窺ヒ清吟ス一順ハ始ノ通名ヲ読再順ヨリ名を読ニ不及挙句ハ下七字返シテヨムヘシ句ノ花ノ時ハ花ノ句ヨリカヘス也

御吟終リテ文台ノ上ニ懐紙筆ヲヲキ年号月日ヲ書ケル返シテ句引ヲ書筆ヲ硯ヘ入ル句引人数コトナレハ上五人下三人ト方半ナレハ上四人下三人ナリサテ膝ヲナヲシテ少シ脇ヘ背ケ文台ノ上ヘハンサシヲ上ケ水引モ上ケテトシル也其上懐紙ヲ文台ノ左ノ端ヘ置ハンサシヲ入レ硯蓋ヲシテ紙ヲ文台の上ニ置硯箱ヲ上ケ元ノ座ヘ直シテ又文台ノ右方ヘ硯紙一ツニ揃下ロシテ懐紙文台ノ直中ヘ直シ末座ヘ帰ル也其トキ一座礼有ヘシ　○神像ノ掛地或ハ追善ノ会ニハ満坐ノ上文台ヲ仕舞床ニ三尺前ヘ揃出テ宗匠ヘ窺清吟有ヘシ

○飾付ノ事文台ノ上ニ紙ヲノセ紙ノ上ニ硯箱ト水引ヲ双可置也　硯筥ノ中筆一対ハンサシ耳掻入ル　右は於寿両巷前五周子ノ愛敬　○吟声序破急ノ意得面長句上五引切中七引下五引結句上七引切下七引中七引下五　上七引下七二ヲ上五引中七下五　上七下七ウ長短共ニ不引花ノ句上五引中七下七挙句上七引下七読返ス

〔三十丁オ〕

夫配祖於天以神道設教刑政爵賞降自廟社三代皆爾（カ）是吾邦之道即夏商之古道也今儒道（カ）所伝独詳周道孝経曰受身体髪膚之於父母謂免於刑戮也身謂劓与宮。体謂刖。髪謂髡。膚謂墨故身体髪膚四字。指五刑而言

之。古之道以免於刑戮為先。故曰身体髪膚。受之父母。不敢毀傷。孝之始也。以見用於世為難。故曰立身行道。揚名後世。以顕父母。孝之終也。

＊智仁勇／孟子尽心上／扁首端／数章＊

知者所見明。是以不為物眩惑。故曰不惑。仁者。有長人安民之徳者也。故仁人以安民為心。以安民為心者。事天者也。事天者楽天。故不憂。是義本諸孟子。誠孔門伝授之説也。

〔三十丁ウ〕

後儒不知仁為安民之徳。而安民本於敬天。故於仁者不憂。不得其解耳。勇者不懼。無須平解。仁齊曰普断故不懼一端哉

○天経曰春夏昼潮常大。秋冬夜潮常大。蓋春為陽中。秋為陰中。歳之有春秋。猶月之有朔望也。故潮之極長。常在春秋之中。涛極大常

＊内＊

在朔望之中。此陰陽消長不失其時。天地之常数也。当其潮時。江河以及盆盎。無処不長。長則気入。水為之軽。潮降気出。水復故重。独小水之処。升降甚微。人所不覚也。水族之物。皆望盈晦蔤。故月虚而魚脳減。月満而蚌蛤実也。草木滋生。無不応月。月満気滋。月虚気燥。故上弦以後。下弦以前。不宜伐竹木。為材易蠹。以生気在中也。故郡子曰。海潮者地気之喘息也。所以応月者従其類也。

〔三十一丁オ〕

列子湯問篇曰昔女媧氏鍊五色石以補天闕断鰲足以立四極共工氏与顓頊争為帝怒触不周之山天柱折地維絶故天頃西北日月星辰就焉地不満東南百川水潦帰之

刺史唐志（書言故事）武德中改太守曰刺史今人改太守為知府矣

○亭長。漢書百官公卿表曰。県ノ令長。皆秦官。掌治其県。万戸以上為令。秩千石至六百石。減万戸。為長。秩五百石至三百石。皆有丞尉。（云云）大率十里一亭。亭有長。○使君後漢寇恂伝註曰。使君。君。尊之称也。書言故事解曰使君大守也蓋此天子之使也故謂使君也又作史君季昌注三体詩第一王維送東川李史君詩注曰史君即刺史○有司ハ本朝奉行也○大司寇当日本刑部省

周礼秋官大司寇之職掌建邦之三典以佐王刑邦国詰四方一曰刑新国用軽典　二曰刑平国用中典　三曰刑乱国用重典以五刑糾万民

〔三十一丁ウ〕

＊□（子カ）曰□（辞カ）達而／□（蓋カ）此謂辞／□也＊

○左伝載孔子曰。志有之。言以足志。文以足言。不言誰知其志。言之無文。行而不遠。夫聖人之道曰文。文者物相雑之名。豈言語之所能尽哉。故古之能言者文之。以其象於道也。以其所包者広也。君子何用明暢備悉為也。故孔子嘗曰。黙而識之。為道之不可以言語解故也。孟子而下。此道泯焉。務欲以言語尽乎道也。以聒争於不知者之前焉。夫人不可以言喩也。況可以言服其心乎。故其言之明暢備悉。適足以為一偏之説耳。故性善性悪。聚訟万古。程朱性理不過為堅向

＊□十七卷／詩可以興可／似観可以群／可以怨＊

○詩道性情主諷詠。触類而賦。従容以発。言非典則。旨（ム子）在

微婉。繁繁雑雑零〻砕〻。大小具在。左右逢原。故其義典窮。大非它経之比焉。然其用在興与観已。興者従其自取。展転弗已。是也。観者。黙而存之。情態在。目是也。朱注感発志意者。観也。非興也。考見得失者。僅具是非之見耳。安可以尽観之義乎。凡諸政治風俗。世運升降。人物情態。在朝廷辞□(以カ)以識閭巷。在盛

〔三十二丁オ〕

代可以識衰世在君子可以識小人。在丈夫可以識婦人。在平常可以識変乱。天下之事。皆苹干我者。観之功也。書為聖賢大訓而礼楽乃徳之則。苟非詩為之輔。則何以能体諸性情周悉不遺哉。及於興以取諸則或正或反。或旁或側。或全或支。或比或類。不為典常。触類以長。引而伸之。愈出愈新。辟如繭之抽緒。比諸燧之伝薪。取自我者可施天下焉。是興之功也。礼楽典誥。教法不渝。若不有詩以為之輔。則何以能応酬事物変化莫尽哉。此詩之用。全在是二者也。可以群。可以怨。皆所以用詩之方。也群。孔安国曰群居切磋。怨。孔安国曰。怨刺上政。蓋此二者。皆以興観行之。無事則群居切磋。諷詠相為。則義理無窮。黙而識

〔三十二丁ウ〕

之。則深契於道。此非群乎。有事則主文譎諫。或唱酬相承以引之者。興也或不言而賦以示之者観也。言者無罪。聞者不怒。此非怨乎。朱註和而不流。怨而不怒。皆無関乎詩焉通之

事父遠之事君亦皆以興観群怨行之。至於多識。乃其
緒余。
○在田曰稲。刈穫曰禾。去藁曰粟。去殻曰米。米而禾春曰糲。已春曰
粱。皆一物也。而稲為糯。粟為秫類。粱為粟中一種。皆後世医家之説非古言矣
＊君子／小人／尤＊
○論陽貨篇
子曰君子有勇而無義為乱小人有勇而無義為盗
在河之洲（閎南）好逑（同）　南有（漢広）喬木不可休　不可求（同）　耿（栢丹）、不寐如有隠憂　微（同）我無酒以
敖以遊
地球讃并序
〔三十三丁オ〕
万方戢化　四海如隣　和蘭賈舶最為尤哉
艤於北西之隅絶干南東之表貿易所通之足迹所
＊秦（イタル）＊
臻（ミ）洲界作図之以西園九万里之地周五大洲（ミ）決壊
接於是乎炳焉矣　如今河村氏造一□（革偏＋匋）丸髣髴乎
地形（大塊）也平子　布置諸洲乃以便於観焉為之讃云
亜斉亜界　祭酒五洲　陰陽調和　平秩葛裘　堯舜
巍、　祖述嘉猷　文武都、　憲章成周
赤日当道　照臨応帝　釈種刹利　瞿曇聡叡

空門楽浄　破析執滞　仏邪仙邪　止不須説
日本降神　綿〻瓜瓞　為政本天　神人無別

〔三十三丁ウ〕

参差（周南長短不斎之皃）　彼黍（黍離）離
探矛蒼溟　惟武凛冽　富嶽鐘秀　永仰白雪
韃跨北規　遐荒漠〻　積陰之気　氷海作壑
人類□（人偏＋焦）僥　朝蓺莫穫　粛慎属萃　羅巴半掠
亜弗利加　出日（日至之辺）至〻〻〻紘　喝叭委陀　西（太鹽西連）有〻〻〻〻臘山
嵗磈□（山＋畏）塊　矗（中青天）穿〻霄間　仙老狗踆
西紅産□（王偏＋膚）
亜墨利加　委（陸続）蛇〻〻両極　千里湖口　銀河流白
皁犖巨公　既見其迹　北陲両島（曲直）入氷国
欧羅依北　巧枝為資　諳□（長袖）利都〻〻（集望洋〔　〕）

〔三十四丁オ〕

＊斉＊

葛〻覃〻
維〻葉〻萋〻（クカンミミミ也）
和蘭賈竪　地海伝亨　横字倒列　左衽鳥詞
墨瓦剌泥　晩見南末　不毛壙野　人獣人〻〻〻未（汨没）割〻〻〻

溟渤洋〻　土塊凸凹　云〻蠢動　猗宇何為何物

若挾岡崎平君蒲識

干時寛政十年徒維戊午敦牂林鐘望若狭平君蒲

操觚於謙斎

＊孔叢子小爾／雅広訓三＊

諸。之乎也。旃。焉也。悪乎。於何レ也。烏乎。吁嗟也。吁嗟。嗚呼也。

有所嘆美有所傷痛随事有義也。無念。念也。無寧。寧也。

無顕。顕也。不承。承也。不肖。不似也。繩レ之。誉之也。詰朝

〔三十四丁ウ〕

＊徵＊

黄鳥（葛草）于飛　言（同）告言帰　薄（同）澣（アラフ）我衣　之（桃夭）子于帰（トツク）　心（栢丹）憂如匪澣衣　不（同）能奮（フルイ）飛

明旦也。遐不黄耇。言寿考也。鄂不韡〻。言韡〻也。

面慙曰懸（及版反）心慙曰恧（女六反音）体慙曰逡

孔子生鯉字伯魚鯉生伋字子思伋生白字子上白生求字子

家求生箕字子京或曰字子真或曰子直箕生穿字子

高穿生武字子順武生三子父子曰世几九世（三子ハ子魚字鮒及子襄名騰及子文名祈也）

長（子魚）子之後承殷統為宋公（子魚生元生名云漢成帝綏和元年封孔子世為殷紹嘉公是也）

中（子襄）子之後奉夫子祀為褒成侯（子二四長為恵帝拷士遷長沙王谷伝生忠或曰季中名員忠生武及安国武生延年延年生覇字次孺婦帝末年為拷□□帝時為大中而点元帝即位爵関内候八百戸号褒成君）此子（子文）之後彦頭持事高祖有切

封蓼侯（少子子文生□（宀冠＋孔）字子産後高祖以左司馬為等佐顎依破楚以切封蓼侯□産生□）

〔三十五丁オ〕

＊陽＊

寘(巻耳)彼周行(大道也)　我(同)馬玄黄(クロキカキニナンヌ)　維(同)以不永傷

戦国策曰斉桓公宮中女市女閭七百国人非

之管仲故為三帰之家以掩桓公非自傷於民也

〔三十六丁オ〕

＊灰／罍酒器刻為／雲雷□□以黄／金餅也＊

陟(巻耳)彼崔嵬(イシヤマ)　酌(同)彼金罍

〔三十六丁ウ〕

＊庚＊

兎罝

公侯干城(タテシロ)

〔三十七丁オ〕

＊東＊

凱風(ミナミカセ)　首(伯)如(今)飛蓬

〔三十七丁ウ〕

＊真＊

采蘋

呼以采蘋南澗浜

〔三十八丁オ〕

徳屋蔵